

執筆者一覧 (氏名は掲載順)

依頼論文

---

田之頭 一知

大阪芸術大学芸術学部芸術計画学科教授

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退、修士 (文学)

主要業績

- ・『美と藝術の扉——古代ギリシア、カント、そしてベルクソン——』萌書房、2017年
- ・「ポエティウスにおける永遠をめぐる——永続的時間と悠久の自然の音楽——」、岡林洋・清瀬みさを (編著) 『カルチャー・ミックス II』晃洋書房、2018年

論文

---

池田 まこと

同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻博士後期課程修了、博士 (芸術学)

主要業績

- ・「R・M・リルケの言語危機について：ホフマンスタールとの比較を通じて」、『美学』第67巻1号、2016年
- ・「リルケの事物概念の変遷について：中期と晩年の作品を比較して」、『美学芸術学』第33号、2018年
- ・「「ヴァレーの丘」に匂い立つ「芳しき香り (Fragrance)」に誘われて——リルケの仏語詩『ヴァレーの四行詩』のたくらみ——」、岡林洋・清瀬みさを (編著) 『カルチャー・ミックス II』晃洋書房、2018年

文献紹介

---

船木 理悠

同志社大学嘱託講師 (2019年4月～)

同志社大学人文科学研究科嘱託研究員 (社外) (～2019年3月末)

京都造形芸術大学非常勤講師

同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻博士後期課程修了、博士 (芸術学)

主要業績

- ・「G・ブルレの音楽美学史的位置づけ——E・ハンスリックとの関係を通じて——」、『美学』第66巻2号、2015年
- ・「エルネスト・アンセルメの音楽美学における解釈と身体——現象学的身体論としてのアンセルメの音楽美学——」、『音楽学』第63巻1号、2017年
- ・「音響のテンポと脈拍のテンポ——ジゼル・ブルレとフーゴー・リーマン——」、岡林洋・清瀬みさを (編著) 『カルチャー・ミックス II』晃洋書房、2018年